

# 大切な思い出を、

# 新たな決意を、

# 未来へつなぐ



大洲市では、学校規模の適正化による教育効果の向上と学校経営の効率化を図るため、「大洲市小学校統廃合計画」に基づき、計画的な学校の統廃合を進めています。

平成25年度末をもって、肱川地域の正山・大谷・予子林の小学校および幼稚園が閉校・閉園し、子どもたちは、4月から同地域内の名称を新たにした肱川小学校および肱川幼稚園に通学・通園することになります。また、大成小学校も同じく閉校となり、菅田小学校へ通うことになっています。

3月22日(土)、23日(日)、閉校を迎える各小学校で閉校記念式典が行われました。地域コミュニティーの核となる小学校が閉校することは、児童にとっても、地元の人たちにとっても、寂しいものであり苦渋の決断であったと思います。それぞれの学び舎には、数え切れないほどの思い出があり、また、長い歴史が積み重ねられています。式典では涙を流す出席者の姿が数多く見られ、幅広い世代の卒業生が参加していました。

4月からは、閉校を迎えた小学校や新しく児童を迎え入れる小学校、地元のみなさんにとって、新たな歴史が始まります。

さようなら、ありがとう……。さあ、新たな一歩を踏み出しましょう。

# 予子林小学校



予子林小学校は、明治8年に柳郷小学校として開校しました。これまで2329人の児童が、自然豊かな学び舎を卒業していきま

した。関係者約220人が出席して行われた閉校記念式典で、新田星児予子林小学校長は、「予子林小学校では、時間がゆつたりと流れ、教師一人ひとりが子どもと向き合うことができた。木造校舎で過ごしてきた思い出を胸に、全ての教職員、児童、園児がこの学び舎を卒業したい」と述べられました。

山下道教予子林小学校区統廃合準備委員会委員長は、「今まで輝かしい歴史を刻んできた予子林小学校の歴史の重さや母校への思い、地域の人のことを思うと閉校は残念なことである。しかし、現実を受け止め、地域が一体となり活性化を図りたい」と決意の言葉を述べられました。

その後、児童たちは「プール掃除や運動会、学芸会など、学校行事は地域の人の支えなしにはできなかった。ここで学んだことに誇りを持ち、新しい目標に向かって進みたい。そしていつか、ふるさとに恩返しができる人になりたい」と長年過ごしてきた母校や地域への感謝と、これからの抱負を発表しました。



いく千年の 昔より  
流れつきぬ 肱川の  
無言の教え 受けついで  
かおる歴史の 学び舎に  
清く明るく たくましく  
育とうぼくら わたしたち



予子林小学校6年生  
山下 湜裕さん

予子林小学校での思い出はたくさんあります。学芸会や水泳大会など全校児童で行う行事は、とても楽しかったです。また、みんなで仲良く遊んだことも大切な思い出です。

今まで通っていた小学校が閉校してしまうのは、とても寂しいです。在校生には、肱川小学校でも頑張っ



# 大谷小学校



大谷小学校は、明治8年に正倫学校として開校しました。これまでに1069人の児童が、傍らを流れる大谷川と美しい田園風景、背後にそびえる御在所山など、自然豊かなこの学び舎を卒業してきました。

式典で小倉和芳大谷小学校長は、地域への謝意を示すとともに「閉校記念として取り組んだモザイクアートは、いろいろな思いの詰まった作品になった。これから新しい学校で新しい友達に出会うみなさんは、新しいことに力いっぱい挑戦してほしい」と話されました。

源田政幸大谷小学校区統廃合準備委員会委員長は「地域にとって大切な小学校がなくなるのは、非常に残念なことである。今後も、みんなが団結し、知恵を出し合い地域の活性化を図りたい」とさらなる団結を呼びかけられました。



その後、児童たちが「大谷小学校には、たくさん思い出がある。地域のみなさんに支えられて今まで頑張ることができた。長い歴史に幕を下ろすが、思い出はずっと心に残る」と長年過ごしてきた母校や地域への感謝と、お別れの言葉を発表しました。

式典終了後には、記念碑とモザイクアートの除幕式を行いました。

大谷川の 水清く  
桜並木の 学び舎に  
明るい笑顔 よせながら  
誠の道を ふみしめて  
平和な郷を 守るのだ



大谷小学校6年生  
西山 蓮さん

大谷小学校で一番心に残っているのは、1年生から6年生まで、みんな仲良くいろいろな遊びをしたことです。  
学校がなくなってしまうのは、とても寂しいですが、友達が多い方が楽しいと思います。4月から肱川小学校に通うみんなには、大谷小学校の時と同じように、新しい友達と仲良くしてほしいと思います。

# 正山小学校

正山小学校は、明治8年に誠実に学校として開校しました。これまでに2731人の児童が、宇和川小富士とも呼ばれる「京の森」を仰ぎ見る、自然豊かな学び舎を卒業していきました。

式典で山岡晋正山小学校校長は、地域への謝意を示すとともに「139年の歴史の中で、県内外や世界で活躍している卒業生がたくさんいることを誇りに思う。子どもたちが、正山小学校の伝統や良い習慣を引き継いでくれることを期待する」と児童への期待を込めて話されました。

櫻田和明正山小学校区統廃合準備委員会委員長は「少子高齢化により、かけがえのない小学校がなくなってしまうことは耐え難いことではあるが、将来ある子どもたちのために苦渋の決断をした。地域の課題はあるが、地域のことは地域で守るために、みんなで知恵を出し合って新しい地域づくりに努めたい」と複雑な心中とともに決意の言葉を述べられました。

その後児童たちは、思い出を振り返りながら、地域や母校への感謝とお別れの言葉を発表しました。



正山小学校の思い出は、人数が少なかったけれど、みんなとても仲良かったことです。

閉校してしまうことは、寂しくて悲しいことです。しかし、新しい学校では、新しい出会いが待っていると思うので、みんな頑張っ

てほしいと思います。

いつまでも、正山小学校での思い出を大切にしたいと思います。



正山小学校6年生  
山田 鈴さん

朝日に映える京の森

尊き姿仰ぎつつ

学びの庭を踏みしめて

みんな仲よく励もうよ

# 大成小学校

大成小学校は、明治8年に森山地区に日新小学校、成能地区に克己小学校として開校しました。これまでに2642人の児童が、目の前を肱川が流れる自然豊かな学び舎を卒業していきました。

式典で餘家幹子大成小学校校長は、「多くの先輩が築いた伝統や校風は脈々と受け継がれている。この半年は、児童にとつても教職員にとつても、一つ一つの行事や活動が心にしみる大切な時間となった。大成小学校の最後を見届けた子どもとして、感謝と誇りをもって、さらに大きく成長してくれることを願う」と涙ながらに話されました。

らに話されました。

松岡昇平大成小学校統廃合準備委員会委員長は、「今までそれぞれの時代を乗り越え、地域の学びと発展を支えてきた小学校が開校になるのは寂しい限り。大成小学校の児童は、思いやりがあり、きちんとあいさつのできる素晴らしい子どもに育った。これからも多くの仲間と切磋琢磨して、勉強にスポーツに頑張ってほしい」と児童に贈る言葉を述べられました。その後、子どもたちは、それぞれの思い出を振り返りながら、地域や母校への感謝とお別れの言葉を発表しました。



大成小学校での一番の思い出は、最後の年に学校で夏休みの親子活動ができたことです。

閉校してしまうことは寂しいですが、大成小学校の思い出を大切に、菅田小学校でも楽しい思い出をたくさん作ってほしいと思います。

私も中学校という新しい環境で、何事にも一生懸命取り組みたいと思っています。



大成小学校6年生  
いしこ 桜季さん  
石河 桜季さん

山紫に 水青く

肱の流れも 清らかに

歴史を永遠に 受けつぎて

明るく学ぶ 大成校



# 地域コミュニティの再生

今、地域のために…

平成25年度末現在、市内で14の小学校がその歴史に幕を下ろしています。地域コミュニティの核であった小学校の閉校は、地元住民にとっても、地元を支える活力にとっても大きな影響を与えるものです。

閉校後における地域振興策をなかなか見出せない地域が多い中、平成23年度末をもって小学校の閉校を迎えた長浜町櫛生地区では、地域振興を目的に小学校を活用した事業がスタートしています。過疎化や高齢化などさまざまな問題を抱えながらも、地域主体による取り組みは確かな形となりつつあります。

3月24日(月)、櫛生小学校跡地利用のお披露目式が、地元住民や事業関係者を招待して行われ、今事業の一部が紹介されました。閉校校舎の跡地利用の実現については、大洲市合併以来初めての例になります。

## 『地元の恵みを活用する』

### 石焼きピザ あたしん家<sup>ち</sup>

本格的なピザ窯を2基設置し、自治会地域づくり部会女性部（公民館女性学級）協力の下、ピザ作りを実際に体験することができる。トッピングになる食材には、地産地消の観点から、季節に応じて地元でとれる野菜や魚介類をふんだんに取り入れている。また、燃やす薪には、櫛生地区で栽培されているみかんの木などが使用され、資源の利活用にも力を注いでいる。



## 『事業の継続へ向けて』

### アワビ陸上養殖研究設備

地域ブランド魚介類を養殖し販売するため、まちづくりグループ「愛郷櫛生一団楽<sup>あいきょうしゅういちだんらく</sup>」を中心に、校舎内の教室を利用してアワビ養殖の研究に取り組んでいる。直径約1.5メートルの円形水槽4基、ろ過装置などを備え、稚貝をおよそ1年間育てた後に販売する予定。

併せて、長浜高校水族館部と連携を図り、アワビ養殖の同時研究を進めていく。



櫛生地域自治会

会長 兵頭

まさひら  
方平さん

## 「新たな試みで地域に力を」

地区内においては、移動手段を持たない高齢者が日常生活に支障を来している状況にあること、老後の不安などを理由に住み慣れた地域を離れてしまうといったケースが目立ちます。基幹産業である農林漁業も衰退し、活気が失われつつある現状を受け、住民全員が「今、新たな取り組みを進めていかなければ」という危機感を覚えています。

今事業では、地域資源の活用、産業の振興、地域コミュニティーの再生をテーマに掲げ取り組んできました。この事業に取り組むにあたっては、住民全員の協力が必要不可欠です。お互いに意思疎通を図り行動することが、今私たちに最も必要なことであり、地域振興を行う上で忘れてはならないことだと思います。



## 『憩いの場として』

### 屋外ガーデンテラス整備

花卉・農山物栽培による鑑賞、育成方法の普及推進を目的に、野外ガーデンテラスを整備。地区住民だけではなく、訪れた人にとっての憩いの場を提供し、交流を促進する。また、パンジーやチューリップなどを栽培・販売することで、地区内の人材を活用、地域自治会の財源確保を図る。

### 【今後の事業展開】

- ▽底引き網漁の乗船、釣り体験
  - ・とれた魚介類をピザにトッピングできる。
  - ・漁業後継者の育成を図る。
- ▽独居高齢者への弁当・生活物資の提供
  - ・声かけ運動などによる安否確認
  - ・防災面における連絡体制の確保

## 新たな地域コミュニティーの形成

コミュニティーの核である小学校の閉校を迎えた地域からは、「子どもたちの声が聞かれなくなった」「にぎわいがなくなった」などの意見が多く寄せられています。多くの住民のみなさんが地元の衰退を心配し、その影響を肌で感じています。

その一方で、このままではいけないという強い意識が、地域の中で芽生え始めていることも事実です。閉校をきっかけに、地域資源を再認識し活用方法について議論を重ねてきた結果が、櫛生地区における事業の実現につながりました。今回、事業の一部を紹介しましたが、地域の取り組みはこれからも続いていきます。

『みんなが笑い集える地域にしたい』

そう願う住民のみなさんの思いが、明るい地域をつくり、新たなコミュニティーを形成していきます。